

4月25日正午必着

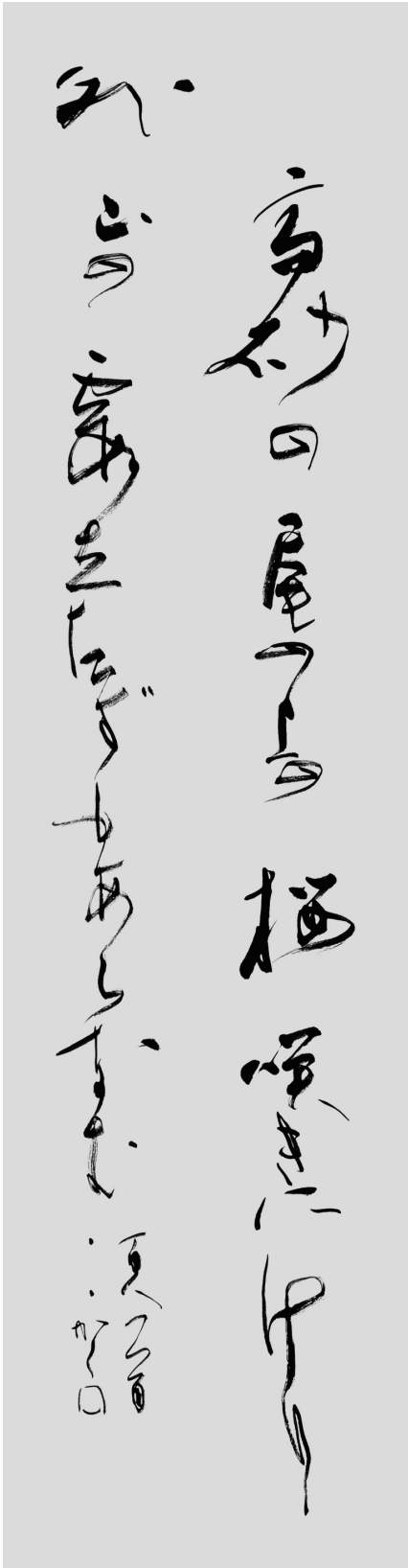
明石春浦先生書



西方安樂國南無彌陀佛
 往生何所疑
さいほうあんらくこく
 いちねんまたじゅうねん
 一念又十念

西方安樂、浄土へと、阿弥陀佛には礼拝す。
 声をつくして願うなり、極楽往生疑わじ。

明石幸子書



高砂の尾の上の桜咲きにけり外山の霞立たずもあらなむ
たかさごのをへさくらさきけりとやまかすみ立たずもあらなむ
 (小倉百人一首・前中納言匡房)

水抱孤村遠
 山道一徑斜
 不知深樹裏
 還住幾人家

菅井松雲先生書

水抱孤村遠
 不知深樹裏

山道一徑斜
 還住幾人家

(劉球)

山村を巡って川が流れ、山の傾斜に沿って山道が続いている。この深い樹林の中に住んでいる人はだれかは知らないが、わずかに数軒の家がある。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

春色満城池(張 祐)

春色城池に満つ

春は都にもやって来た。

紅樹青山日欲斜
 長郊草色綠無涯 (歐陽修)

紅樹青山日斜ならんとし
 長郊の草色 綠 涯無し

春日郊外の景である。

春日臥病書懷 (劉 商)

春日 病いに臥して懐いを書す
 劉商

楚客經年病 孤舟人事稀

楚客 年を経る病み 孤舟 人事稀なり

晚晴江柳變 春暮塞鴻歸

晚晴 江柳變じ 春暮 塞鴻歸る

今日方知命 前年自覺非

今日 方に命を知る 前年 自ら非を覺る

不能憂歲計 無限故山薇

歲計を憂うること能わず 無限なり 故山の薇

繪日傘をかなたの岸の草になげわたる小川よ春の水ぬるき (與謝野晶子)

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

東 乘
去 流
向

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

乘流向東去

隸書

乘深向東去

明石春浦先生書

草書

乘流向東去

行草書

乘深向東去

夜になって、楚の家々の盛に煙たちのぼる地域にはいった。煙の中に、人々はまだ眠らずにいる。淮水の岸辺の眺望を極めつくし、舟中に坐したまま酒楼の前についた。灯火の影は半ば水を照らし、あたりの船の中からしきりに箏のしらべがきこえる。流れに乗って東をさして行こうとするが、この地を離れて行けば、たちまちに年月が過ぎることであろう。

夜泊淮陰 項斯

夜入楚家煙
煙中人未眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨水
箏聲多在船
乘流向東去
別此易經年

夜 淮陰に泊す 項斯

夜 楚家の煙に入る
煙中 人 未だ眠らず
望み来って 淮岸尽き
坐して到る 酒楼の前
灯影 半ば水に臨み
箏声 多く船に在り
流れに乗じて 東に向かつて
去る

此を別れて 年を経易からん

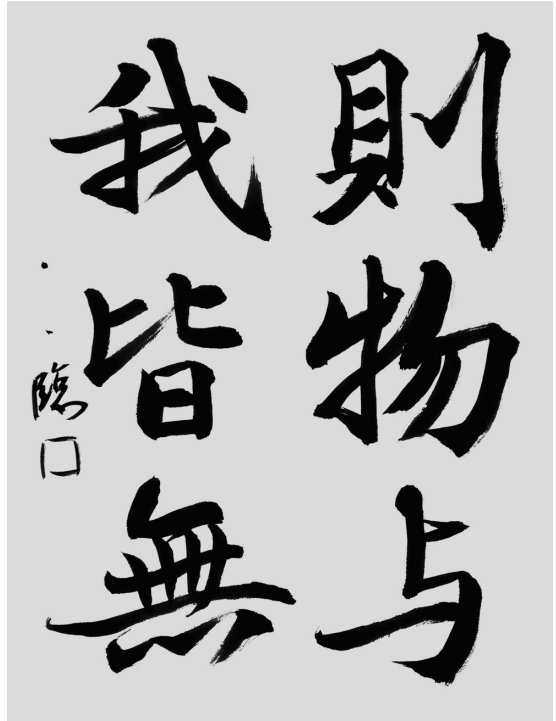
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

曾不能以一瞬自其不變
者而觀之則物与我皆無
盡也而又何羨乎且夫天地
之間物各有主苟非吾之
所有雖一毫而莫取惟

曾不能以一瞬。自其不變者而觀之。則物与我皆無盡也。而又何羨乎。且夫天地之間。物各有主。苟非吾之所有。雖一毫而莫取。惟
曾ち以て一瞬たること能わず。其の變ぜざる者よりして之を觀れば、則ち物と我と皆な尽くる無きなり。而るに又た何をか羨まんや。且つ夫
れ天地の間、物各おの主有り。苟しくも吾の有する所に非ざれば、一毫と雖も取ること莫し。惟だ



其の變ぜざる者よりして之を觀れば、則ち物与我と皆な尽くる無きなり。



則ち物与我と皆な(尽くる)無きなり。

宋 蘇軾・前赤壁賦

蘇軾は宋代の景祐三年(一〇三六)十二月十九日、眉州(四川省眉山県)に生まれた。字は子瞻。東坡居士・鉄冠道人・雪浪斎などと号した。北宋を代表する文人で、詩は宋代第一とされ、文は父の蘇洵、弟の蘇轍とともに唐宋八家の一人にあげられている。書は黄庭堅・米芾・蔡襄とともに宋の四大家とよばれる北宋書壇の大御所であり、墨竹も有名である。

嘉祐二年(一〇五七)、官吏登用試験(科挙)に合格して進士となり政界に身をおいたが、幾度となく中央政界から地方転出や流罪などの憂目にあい、元符四年(一一〇二)大赦をうけて帰郷する途中に病死している。(六十五才)

彼の書は若年期には王羲之に傾倒し、特に蘭亭序をよく学んだといわれている。この時期には行・楷の作が多く、書風はいたっておとなしい。中年期は顔真卿・楊凝式を学んだ時期であり、作風は自由でたくましい。晩年の書は伝えられるものが少ない。

この前赤壁賦は、彼が黄州(湖北省)に流され赤壁に遊んだ時に作り、その翌年に書いたものと言われている。元豊六年(一一〇八三)四七歳の書である。孤高清烈の書で彼の正書の代表作とされている。はじめの三六文字が欠落しており、文徵明が補書している。(春濤)

(春濤)

4月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

か
歌

し
詞

中学一年



菅井松雲先生書

もん
紋

しょう
章

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

しょう
小

せつ
説

小学五年



横川春川先生書

じ
自

が
我

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着



か

う

小学三年

藤田幸春先生書



こ

と

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

た こ 小学一年・幼年



森戸春濤書

ビ ル 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

もかがやいて見える
 日ぐれ前の湖はもっと

小学五年

緑あふれる野をぬけて
 やがて汽車は海に出た

小学六年

森林のおくにヒスイ色に
 かがやく湖がある

中学

うさぎ道への山
 いぶなつりの川

一般(級位)

いはしる 垂水の上の さ廠の 萌えいづる 春に なりにけるかも (志貴皇子)

石ばしる 垂水の上の さ廠の 萌えいづる 春に なりにけるかも (志貴皇子)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ひ	そ
こ	ら
う	に
き	う
ぐ	か
も	ん
	だ

幼年

か	字
き	は
ま	て
し	い
よ	ね
う	い
	に

小学一年

作	カ
つ	ラ
た	ー
ヶ	ね
ー	ん
キ	土
	で

小学二年

い	白
目	い
の	か
	ら
う	だ
さ	で
ぎ	赤

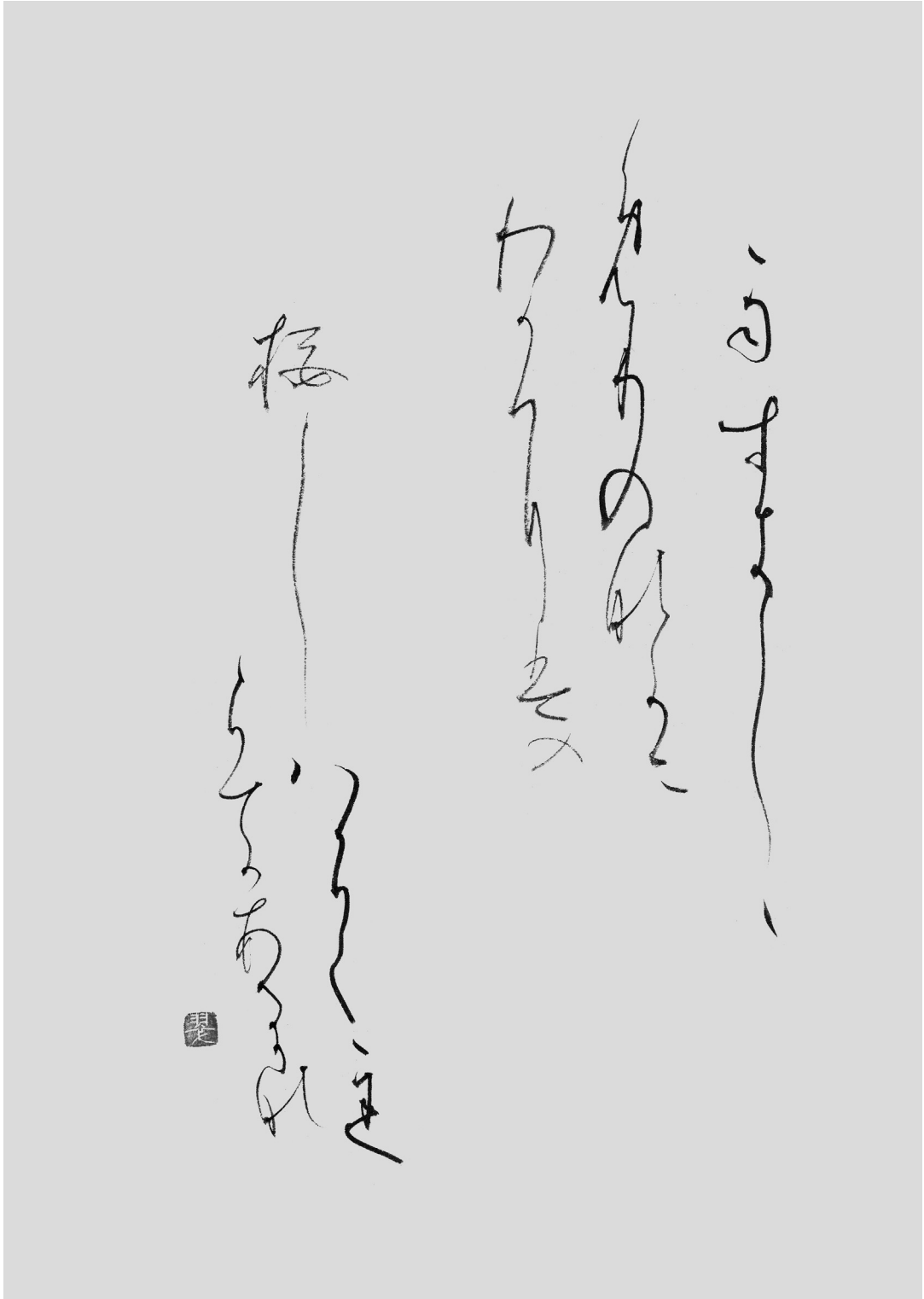
小学三年

そ	お
ぶ	花
ニ	畑
ひ	で
き	た
の	の
子	し
犬	く
	あ

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

雨
 支ぎし
 免めりのなか
 可二に
 わがにはの
 可耳盤
 桜
 八ばらく
 遅ちらで
 可かある
 可かな
 可那